

産業能率大学 経営学部

環境マネジメントの基礎	履修年次	1	
	単位	2	
安達 亜紀	配当期	後	
	授業方法	講義/ オンデマンド	
授業の内容			
<p>[授業の概要]</p> <p>気候変動をはじめ、地球規模で進行する様々な環境問題への理解と対策は今日、持続可能な社会の実現と共に、企業の持続性に関しても、ますます重要になっている。本講義の前半部分では、気候変動やオゾン層破壊、生物多様性の喪失、プラスチックごみによる海洋汚染、廃棄物とリサイクルといった環境問題を順にとり上げ、それぞれの問題の特性や対策について解説する。また日本においては、戦後の高度経済成長に伴い発生した激甚公害によって、多数の被害者が生み出されたことから、その被害や当時の対策、その後の環境政策の発展について振り返る。</p> <p>一方、化石燃料をはじめとするエネルギー資源は、現代の人間の生活や企業活動にとって不可欠であるが、その利用は環境に影響を及ぼし、持続性に関する様々な課題も存在する。このため、授業では多様なエネルギー源の特性や環境への影響についても学び、持続可能なエネルギー利用の可能性について考える。さらに、環境影響評価、企業の社会的責任(CSR)と共有価値の創造(CSV)、持続可能な開発目標(SDGs)、ESG投資などについて解説する。</p>			
この科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動問題をはじめとする様々な環境問題や、それらへの対策について理解を深めることができる。 ・環境問題に対して企業がとる対策や、環境に配慮した取り組みを活かした企業活動について基礎的な知識を得ることができる。 ・気候変動問題をはじめとする環境問題を、自分自身の問題として捉え、さらなる情報収集に努めると共に、自ら環境に配慮した行動をとることができる。 			
成績評価の方法			
授業出席(授業時に用紙に記述するコメントの内容を含む)、授業外学習、小テスト、定期試験の結果によって総合的に評価する。			
週	授業項目	週	授業項目
1	ガイダンス授業の進め方の確認	8	廃棄物とリサイクル
2	気候変動(地球温暖化)のメカニズム	9	日本における公害と環境政策の発展
3	気候変動(地球温暖化)の影響(予測)と対策	10	エネルギー資源と環境
4	気候変動(地球温暖化)問題に対する企業の取り組み	11	企業活動と再生可能エネルギーの利用
5	オゾン層破壊と地球環境問題に関する国際協調	12	環境アセスメント
6	生物多様性の喪失	13	企業の社会的責任(CSR)と共有価値の創造(CSV)
7	プラスチックごみによる海洋汚染	14	持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて